

能登半島地震で被災された農業者の皆さまへ

熊本地震を乗り越えて

～農業者の応援メッセージと復旧・復興事例～

令和6年7月

能登半島地震被災農業者応援チーム



はじめに

本事例集は、九州農政局若手職員有志が、能登半島地震に被災された農業者を応援するために、熊本地震の被災から再建を果たされた農業者を取材して作成したものです。

実際に取材を行うなかで、熊本地震の被害の甚大さを痛感するとともに、再建を果たされた農業者の皆さまの逞しさを感じることができました。

また、ご協力いただいた熊本地震の被災者の皆さまからは、能登半島地震の被災者の皆さまへの応援メッセージをいただきました。

熊本地震とは状況が異なるかもしれませんが、本事例集により、一人でも多くの能登半島地震被災農業者の経営再建の一助となれば幸いです。

ご多忙の中、本事例集の作成にご協力いただいた農業者の皆さま、関係機関の皆さまに感謝申し上げます。

令和6年7月
九州農政局能登半島地震被災農業者応援プロジェクトチーム一同

目次

はじめに

1.熊本地震の概要 2

2.事例集 3

①未来につなげる創造的復興 4

秋津宮農組合 上田徳行氏

②白菜全廃棄の後悔をバネに！ 5

株式会社すえ広ファーム

中村友紀氏・恵子氏

③スピード感を意識した再建 6

清住フラワーファーム 清住教弘氏

④崩壊した棚田を大幅に使いやすく 7

乙ヶ瀬地区 藤原敏行氏

⑤仲間全員でピンチをチャンスに 8

山田牧場 山田政晴氏

⑥支援の輪でつながる未来 9

林田農場 林田和大氏・直行氏

応援メッセージ動画のご紹介

1. 熊本地震の概要



〈被害の状況〉

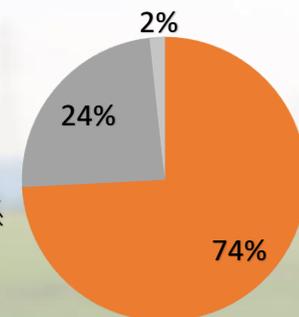


農林水産関係における被害総額

約**1,800**億円

被害総額の内訳

- 農業関係
- 林業関係
- 水産業関係



〈農業関係：約1,353億円〉

- ・ 農地に亀裂や段差が生じ、ため池の損傷が発生
- ・ 畜舎の倒壊等による家畜の死亡・廃用や、野菜選果場の破損による出荷への影響が発生

〈林業関係：約439億円〉

- ・ 林道の法面崩壊、落石、路面の損壊

〈水産業関係：約33億円〉

- ・ 漁港の堤防にひび割れや沈下が発生

2. 事例集

①秋津宮農組合



②すえ広ファーム



③清住フラワーファーム



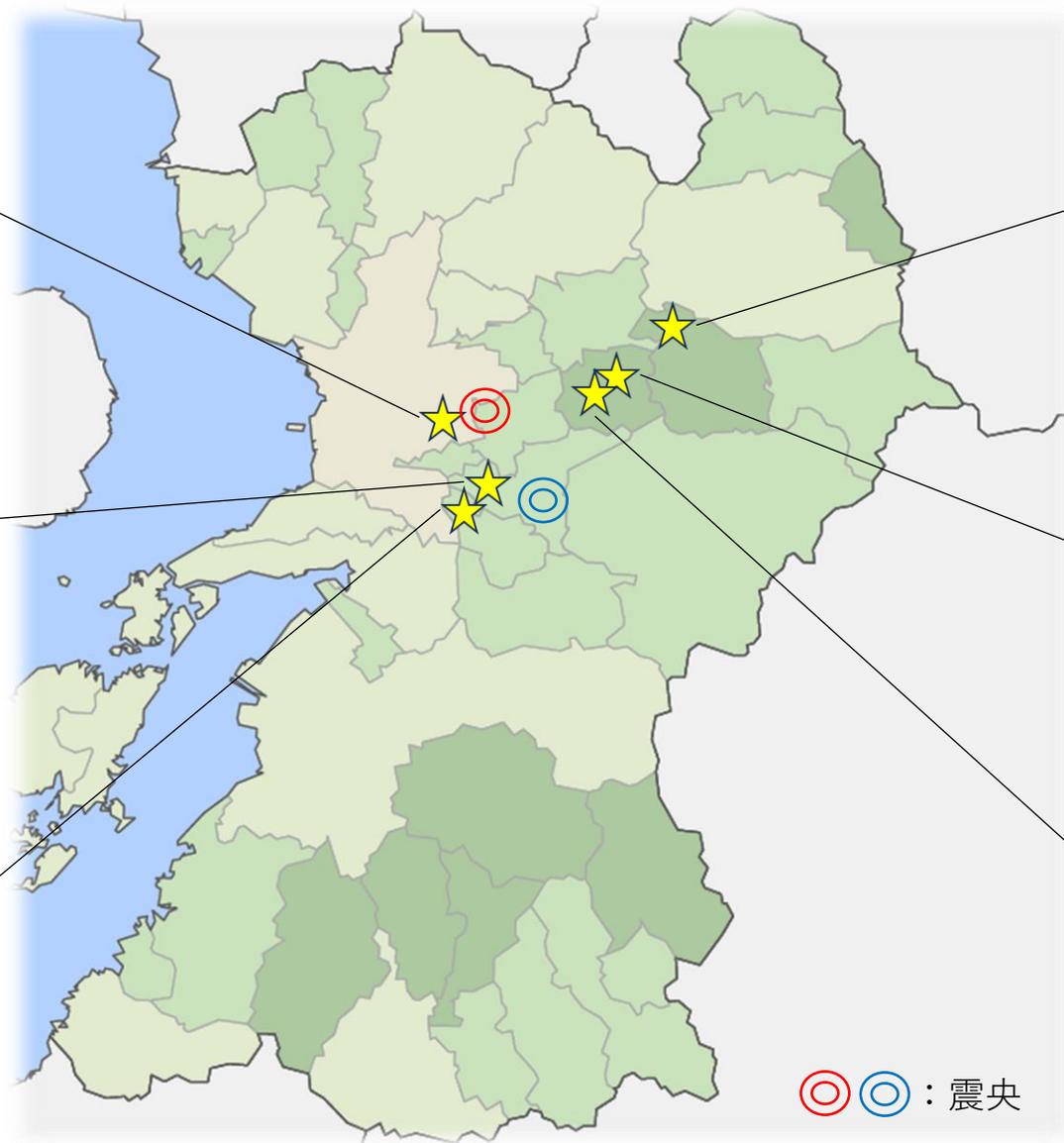
④乙ヶ瀬地区



⑤山田牧場



⑥林田農場



◎◎ : 震央



土地利用型作物

①未来につなげる創造的復興

秋津宮農組合(熊本市東区)
組合長 上田 徳行 氏



上田 徳行 氏

『地域の明日を思い、信念をもって復興して下さい。』

熊本地震で大きな被害を受けました。多くの皆さんの支援の中でやっと麦・米・大豆が植えられるような水田に復興しました。皆様も今一番悩み時でしょうけれども、克服していただいて、あの時は大変だったなと思える状況が来ればいいと思います。

復旧・復興の歩み



震災前	被災 (平成28年4月)	再建 (約4年間)	現在
<ul style="list-style-type: none"> 耕地面積:172ha 稲作:115 ha 大豆:67 ha 小麦:65 ha 	<ul style="list-style-type: none"> 圃場の亀裂や隆起により生育中の小麦の収穫が不可となりほぼ廃棄 水稲の作付も不可 用排水路、農道、橋梁、民家も甚大な被害 	<ul style="list-style-type: none"> 補助事業を活用し、農地の大区画化(0.3ha→0.5~1.0ha/筆)と排水対策による水田の汎用化を実現 夏季は水稲再開までの4年間、大豆のみを栽培 	<ul style="list-style-type: none"> 耕地面積:172ha 稲作:90 ha 大豆:86 ha 小麦:121ha
<ul style="list-style-type: none"> (耕地利用率:144%) 大区画化圃場(0.5ha/筆)の面積:9.4ha 組合員:140名 			<ul style="list-style-type: none"> (耕地利用率:173%) 大区画化圃場(0.5ha/筆)の面積:140ha 組合員:141名



被災直後の圃場

復旧・復興のポイント

- 被災後、直ちに組合員仲間と今後の方針を協議。水稲作付不可と判断し、全面大豆栽培への切り替えを決断した。
- 被災3カ月後、地元関係者による「秋津地区未来創造プロジェクト会議」を立ち上げた。原形復旧ではなく、地域の将来を見据えて農地の大区画化等により発展を目指す創造的復興を実施した。



現在の圃場



中村 友紀氏
恵子氏

『がんばろう北陸。あなたは一人じゃない。希望の光をもって前へ進もう!!』
北陸の皆さん、1月1日、それからの苦しい生活っていうのは私たち熊本でも経験してきました。希望の光を持って前に進んでいきましょう。頑張りましょう。応援しています。

復旧・復興の歩み

震災前	被災 (平成28年4月)	再建 (約3年間)	現在
<ul style="list-style-type: none"> ・ 作目 白菜:600a キャベツ:2~3a 米:2ha など ・ 労働力:2~9名 (シルバー人材センター等を活用) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小屋、倉庫計4棟が倒壊、農機具が損壊 ・ 水田に亀裂、段差が発生 ・ 収穫予定の白菜を廃棄 (被害総額約1000万円) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 補助事業を活用し、農機具を復旧 ・ 被害の少なかった畑で栽培を再開 ・ 2~3年かけて自力で水田を復旧 ・ リスク分散等の目的で石川県、福井県に農地を取得(平成31年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作目 ジャガイモ:50ha (うち25haは北陸) 白菜:28ha カボチャ:8ha キャベツ:3ha ・ 労働力:13名 (外国人技能実習生を含む)

復旧・復興のポイント

- ・ 被災後、消防団として奔走し、自分の生活が二の次になってしまったため、白菜の収穫ができず、復旧にも時間がかかった。この経験から、農家という安定しない職業だからこそ、自分の生活、本業を第一優先して仕事を再建したほうが良い。
- ・ 経営の復旧に借金が生じたが、「子供が成人したときに、借金を残したくない。借金を返済し終わってからの、本当の復興である。」という強い気持ちで仕事に没頭している。

現在の圃場





清住 教弘 氏



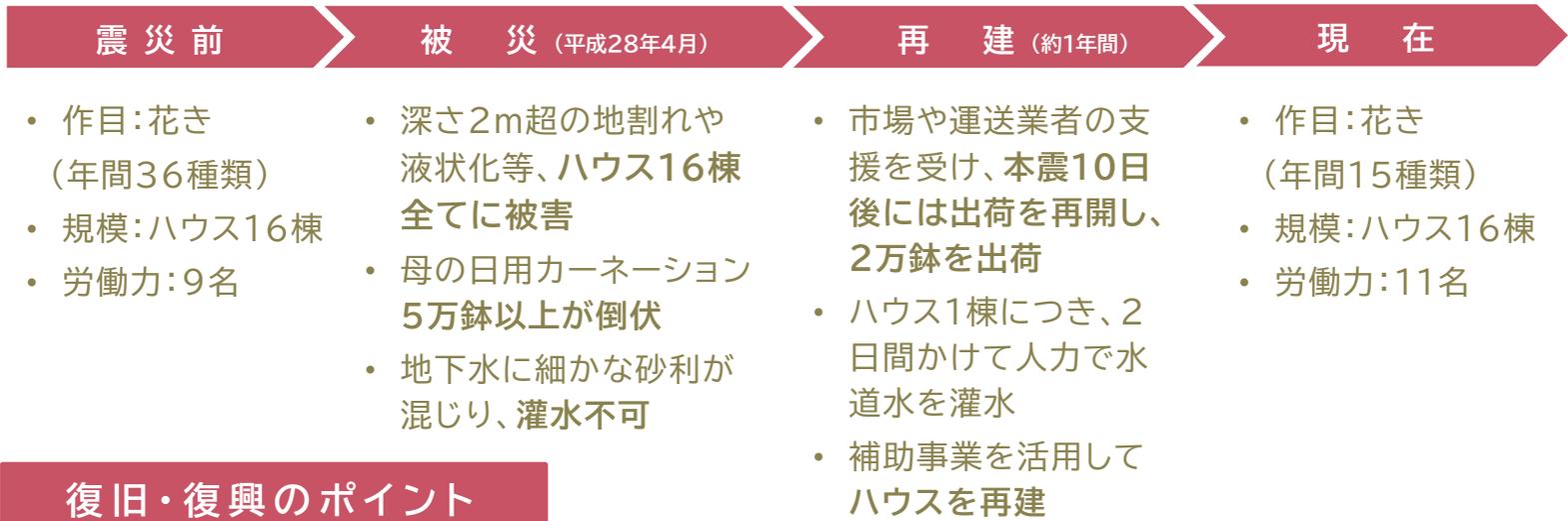
倒伏したカーネーション



現在のハウス内

『復興・復旧はできます。自分達、日本を信じて一緒に頑張りましょう。』
北陸の震災の被害にあわれた皆様へ、復旧・復興は必ずできます。
私達もまだ復旧・復興の途中ですが、日々少しずつできています。諦めなければ必ずできます。自分達、行政、周りの方々を信じて日々頑張っていきましょう。

復旧・復興の歩み



復旧・復興のポイント

- ・ 液状化、地割れしたハウス内一面に母の日用に育ててきたカーネーションが倒れているのを見て言葉を取り失い、しばらく何も考えられなかった。しかし、倒れても鮮やかな花をつける植物の力強い生命力に再起を決意した。
- ・ とにかく早く仕事が再開できるよう時間を意識した。再建に時間がかかると費用も高くなるので、本格的な再建の前にできるところは自ら修理し、できないところは手持ち資金の範囲で業者に依頼して修理した。



藤原 敏行 氏

『遠い熊本から応援しております。』

熊本地震では、崩壊した田んぼを見て愕然としました。復興した後は、みんな喜んで栽培に取り組んでいるところです。皆さんもこれから生活基盤を整えながら、復興に大変だろうと思いますが頑張ってください。応援しています。

復旧・復興の歩み

震災前	被災 (平成28年4月)	再建 (約4年間)	現在
<ul style="list-style-type: none"> ・ 作目 稲作 ・ 規模: 23ha (15a/筆) ・ 労働力: 15名 ・ 担い手への 農地集積率: 11% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山腹崩壊により、大量の土砂が棚田に流入 ・ 倉庫が全壊し、農業用機械も被害 ・ 地区として30戸のうち20戸の家屋が全壊 ・ 停電、断水、道路への被害で一時孤立 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 補助事業を活用して倉庫等を再建 ・ 県の基盤整備事業により農地を大区画化・汎用化 ・ 事業完了までの間別の圃場で稲・牧草を栽培 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作目 稲作、白菜、高菜、里芋 ・ 規模: 18ha (34a/筆) ・ 労働力: 15名 ・ 担い手への 農地集積率: 82%

復旧・復興のポイント

- ・ 被災直後の棚田を目の当たりにし、一時は再開を諦めかけたが、県から農地の大区画化や担い手への農地集積を行う基盤整備事業の提案があり、仲間で話し合い全員一致で再開を決意した。
- ・ 水田の汎用化による高収益作物(白菜、高菜、里芋)の導入により、農業生産性が向上し、併せて担い手への農地集積も大幅に増加した。



被災直後の棚田



現在の棚田

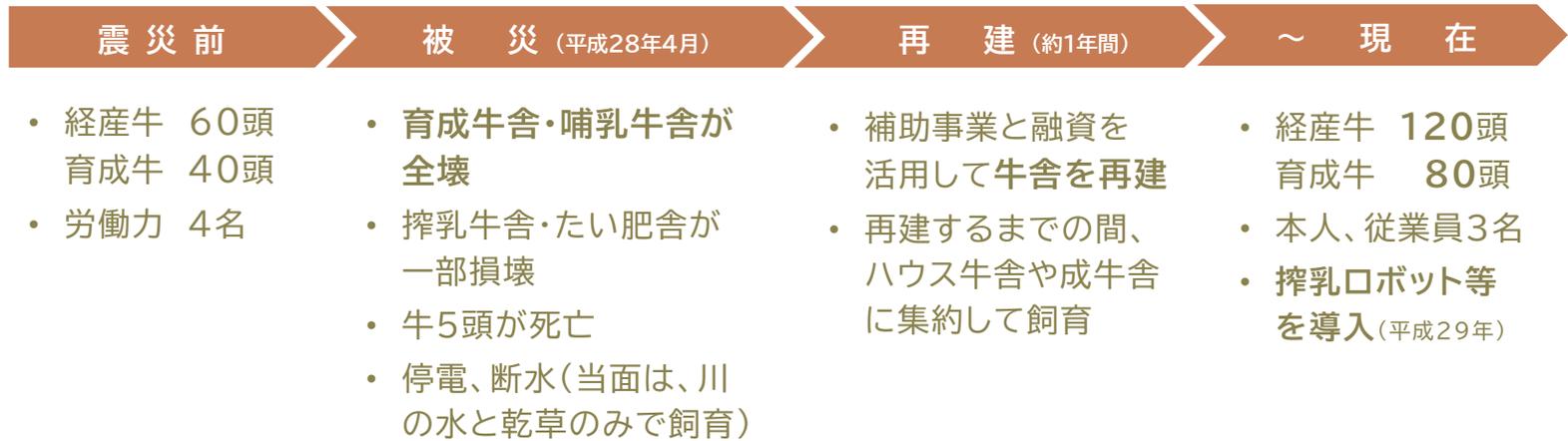


山田 政晴 氏

『厳しさを乗り越えて、頑張ってください。必ず明かりが見えます。』

僕たちも災害を経験してきました。でも今は以前より、より良く頑張っています。
(北陸の)皆様方も災害は大変でしょうけど、それにも負けず頑張ってください。
こちらからも応援しています。

復旧・復興の歩み



全壊した牛舎



現在の牛舎

復旧・復興のポイント

- 西原村の酪農家が定期的に集まり現状報告。「3年もすれば明かりが見える」と自分達を奮い立たせ、顔を合わせることで孤独感をなくした。「酪農家から一戸の離農者も出さない」という強い意志のもと、酪農を辞めようとしている仲間を説得した結果、誰一人辞めることなく復活を遂げた。
- 補助事業を活用して、牛舎の再建に加え、新技術の導入と牛の増頭を行い、震災を契機に経営を拡大した。村も生まれ変わった。



⑥支援の輪でつながる未来

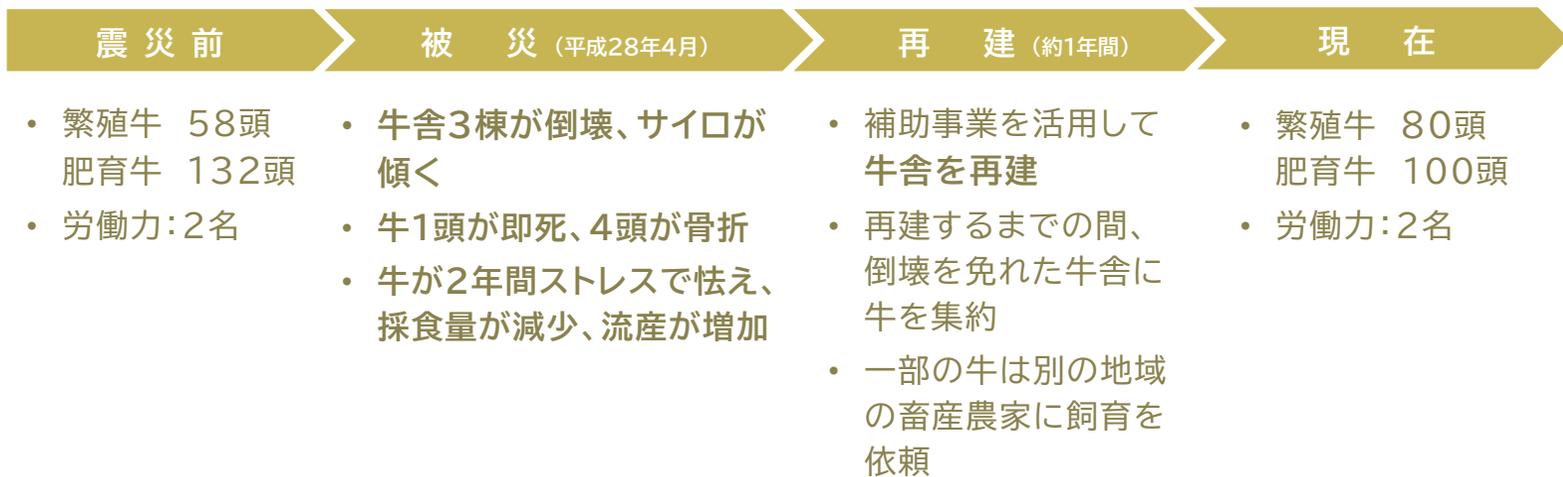
林田農場(西原村)
林田 和大氏・直行氏



林田 和大氏
直行氏

『諦めず希望をもって頑張ってください。熊本から応援しています。』
熊本地震では牛舎もぺっちゃんこになって、復旧して今では立派な牛舎になりました。あれから8年経ちますが、もう軌道に乗って頑張っています。くじけずに希望をもって頑張ってください。

復旧・復興の歩み



倒壊した牛舎



現在の牛舎

復旧・復興のポイント

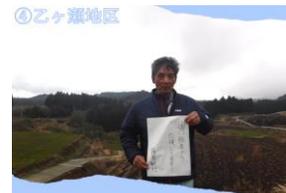
- 被災後、飼料不足の状態になったが、北海道の畜産農家から支援があった。また、断水により当番は川の水を毎日汲みに行く必要があり、水汲みだけで1日が終わるような状況であったが、その後は全国から来られた多くのボランティアのおかげで仕事がさばけ、復興に向けて頑張れた。
- 倒壊した牛舎を撤去しなければ、再建に移れないので、スピード感を意識して瓦礫の撤去や簡易な修理は自分たちで行った。

応援メッセージの動画のご紹介

九州農政局のホームページ上にて、取材先の農業者からいただいた応援メッセージの動画を公開しています。是非ご覧ください。

<https://www.maff.go.jp/kyusyu/kumamoto/noto.html#digest>

能登半島地震被災農業者応援プロジェクト



【お問い合わせ先】
九州農政局経営・事業支援部担い手育成課
代表：本島 096-300-6322 (内線 4316)